



受検終了

公立高校中期選抜が終わりました。受検生のみなさん、お疲れ様でした。17日の発表を楽しみに待ちたいと思います。

今後卒業までに残された時間はわずかですが、高校生や社会人として生活していく上で大切な学習や、中学校生活最大の行事である「卒業式」に向けた取組があります。義務教育を修了する立派な生徒として、引き続き頑張りましょう。

まだ中学生

受検が終了して、ほっと一息つける状態になったと思います。未来の高校生活を想像してわくわくしている人もいるでしょう。君たちが充実した高校生活を送り、そこでさらに能力を高めることを我々も期待しています。

しかし、君たちはまだ「中学生」です。高校生であれば許されることであっても、まだ許されません。また高校生に要求されるルールやマナーなどは、当然中学生にも要求されるものです。「遅刻をせずに登校する」「授業などの活動には集中する」「服装などはしっかりと整える」など、学生として（社会人としてもですが）求められる生活態度は持ち続けるべきだし、もし不十分なら改善するように努力するべきです。「4月になったらちゃんとする」という先延ばしの甘えが通用しないことは、今回の進路実現の中で学習できていると思います。

「これくらい良いんちゃう？」とか「これくらい許されるんちゃう？」という発想の正反対にあるのが「受験準備」だったはず。「すべきことをしっかり実行」「妥協せず、正解を求める」「これで充分ではなく、もっと上を」と自分を律し、向上心を持ち続けたからこそ「合格通知」を手に来るのではないですか？

この経験で得た宝物をこのあとも大切にすることが、高校生活を成功させる最大の財産です。

終わりよければ・・・

君たちと1年生の時から関わった先生たちは、3年間で君たちの成長を実感されています。

幼く落ち着かない面もあった1年生が2年生の後半ぐらいから学習姿勢が向上し、3年生では部活動や行事などを中心に活躍し、最上級生としての役割を立派に果たしました。進路を控えた三学期も、真剣に自分に向き合い学力を向上させ、希望進路を獲得しようとしてきました。

この君たちが3年生で残した実績が、君たちの評価として三中の歴史に残ると思います。ただし、君たちの活動はまだ残っています。このまま前向きな姿勢を維持してフィナーレを迎えられるのかどうかで評価が分かります。（もちろん、楽観的に考えてはいますが、危惧する要素がないわけでもありません。）

最後までしっかりとした学年を維持し、さらに向上させた状態で卒業することを公立高校の受検終了という機会にもう一度考えてほしいと思います。

最後の一週間・・・

公立高校の前期・中期選抜では合計23校に出願しました。私立高校では36校に合格者がいます。つまり4月から君たちは、50以上の高校に分かれて生活することになります。

もちろん、中学校を卒業しても長岡京市内や京都市内で会うこともあるだろうし、進学した高校が違って一緒に遊ぶこともあると思います。でも、今のように同じ校舎で共に学校生活を送ることはありません。

この最後の一週間で大事に過ごすことは今までの約一年間の生活と同じくらい価値があると思いますが、あなたはどうか考えますか？

高校の先生との話

この一年間、多くの高校の先生方といろいろな話をしました。もちろん、その中には、それぞれの高校の教育活動で大切にされていること・熱心に取り組んでおられることをはじめとして、こんな生徒に来て欲しいというお話もたくさん伺いました。当然、学力やスポーツ・文化活動等も含まれます。そういう話の中で、**高校に行ってどんな生徒が伸びていますか、という質問をします。中学校卒業時の学力あるいはスポーツ等の実績、それらをさらに伸ばすことのできる生徒はどんな生徒ですか、という質問です。**みなさんは、その答は何だと思えますか？

私の尊敬する先生の一人に、次のような先生がおられました。その先生は、学校を替わられた先で、本来先生が得意なスポーツの部活ではなく、その顧問がいないということで、全く経験したことのないソフトテニス部の顧問になりました。まったく経験したことのない部活動でまずその先生がされたことは、テニスコートの周りに生い茂っていた雑草の草抜きをされたことでした。来る日も来る日も熱心にされたその姿を覚えています。生徒たちが良い環境で活動ができるために経験のない自分ができることはないかと始められました。高校の先生方の答は、そんな先生のように「謙虚な気持ちと周囲に対する思いやりのある」生徒が伸びるといふことなのだと思えます。

学習やスポーツ、自分が挑戦してみたいこと、努力したいことなど、高校生活に対するみなさんの希望は、大きく広がっていると思います。その大きな夢を育むのに必要な力は、そのことが上手になるための技術だけではありません。感謝、敬意を忘れずに頑張ってくれることを願っています。